

AIメカテック（東証スタンダード-6227）

～ 24/6期は55%営業減益、25/6期会社予想営業利益は6.2倍 ～

投資評価

前回 1 → 今回 1
2024/6/5 Buy

アナリスト
岩元 泰晶

主要指標

6227

(2024年8月8日現在)

株価	1,887 円
時価総額	117 億円
予想PER (25/6期)	14.7 倍
予想PER (26/6期)	10.9 倍
実績PBR	1.07 倍
予想配当	45.0 円
予想配当利回り	2.38 %
配当性向	35.1 %
予想ROE	7.11 %
予想DOE	2.50 %
発行済株式数	6,213 千株
売買単位	100 株

(注1) 予想はTIW.

(注2) DOEは株主資本配当率(配当性向 * ROE)

要旨・投資のポイント

＜24/6期は55%営業減益、25/6期会社予想営業利益は6.2倍＞

- 暫定的に投資評価「1 (Buy)」を継続する。同評価は従来TIW業績予想に基づくもの。後日開催される決算説明会等を経て、業績予想を見直したうえで改めて評価を行う予定。
- 24/6期の連結業績は、売上高15,421百万円（前期比0.3%減）、営業利益261百万円（同55%減）となった。会社予想対比では、未達だった。6月末に船積み出荷予定だった装置3台が、荒天により7月出荷となったことが足かせとなった。
- 25/6期の会社予想は、売上高20,015百万円（同30%増）、営業利益1,625百万円（同6.2倍）。IJPソリューションについては、IT機器向けディスプレイの有機EL化や、AR/VRグラス等の量産計画を踏まえたマイクロディスプレイや光学製品向け投資の積極化などにより、関連設備投資が底堅く推移する見通し。半導体関連では、AI用先端半導体需要拡大に加え、IT機器・汎用サーバ用半導体需要の回復を受けた積極的な設備投資を見込む。

＜LCDから半導体関連とIJPソリューションへと業容を変革＞

- 同社は、LCDからプレミアム・ディスプレイへの流れが見られるなか、LCDの売上伸長が望めないと判断。事業主体をLCDから、半導体関連及びIJPソリューションへと変革する取り組みを進めている。LCDをアフターサービスを軸とした安定収益基盤とする一方で、半導体関連で足元の成長を図り、IJPを続く成長ドライバーとする構えである。

業績推移

6227

単位: 百万円、円、%

連結通期	売上高	伸率	営業利益	伸率	経常利益	伸率	純利益	伸率	EPS	DPS
2023/6	15,461	5	581	-21	469	-31	1,193	150	211.9	45.0
2024/6	15,421	0	261	-55	162	-65	111	-91	19.4	45.0
2025/6 会社予	20,015	30	1,625	6.2倍	1,510	9.3倍	216	95	34.8	45.0
TIW予	22,030	43	1,271	4.9倍	1,172	7.2倍	797	7.2倍	128.3	45.0
2026/6 TIW予	24,870	13	1,676	32	1,577	35	1,072	35	172.5	52.0
2027/6 TIW予	28,480	15	2,217	32	2,118	34	1,440	34	231.8	70.0
2025/6 コンセンサス予想	21,015	36	1,386	5.3倍	1,285	7.9倍	848	7.6倍	129.3	45.0
2026/6 コンセンサス予想	24,685	17	2,088	51	1,988	55	1,336	58	174.2	48.5
2027/6 コンセンサス予想	予想なし									

出所: 会社データ、TIW、アイフィスジャパン 注: TIWの予想EPSは発行済株式数(自社株を含む)で計算

本レポートに掲載された情報・意見は、信頼にたると判断した情報源に基づき作成したものでありますが、完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は必ずしも適切且つ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は投資家ご自身の判断と責任で行って下さい。注意事項の詳細については最終ページをご参照ください。

24/6期は0.3%減収、55%営業減益

- 24/6期の連結業績は、売上高15,421百万円（前期比0.3%減）、営業利益261百万円（同55%減）となった。事業セグメント別の売上高及び営業損益は、下表のとおり。IJP（Inkjet Printing：インクジェットプリンティング）ソリューションは、主力の「マイクロディスプレイ向け一括封止ライン」が低調。半導体関連は、「はんだボールマウンタ」が振るわない一方、生成AIサーバ用先端半導体向け「ウエハハンドリングシステム」や、パワー半導体向け「UV/プラズマ装置」が好調に推移した。LCD（Liquid Crystal Display：液晶ディスプレイ）事業は、顧客の投資抑制が継続したことが響いた。

24/6期は会社予想未達、荒天による出荷遅れが足かせに

- 24/6期実績は、会社予想（売上高16,023百万円、営業利益349百万円）対比では、未達だった。6月末に船積み出荷予定だった装置3台が、荒天により7月出荷となったことが足かせとなった。

事業セグメント別売上高及び損益

単位：百万円

	IJP ソリューション事業	半導体 関連事業	LCD 事業	調整額 ※	財務諸表計上額 (売上高、営業利益)
■ 23/6期					
売上高	3,847	7,033	4,580	-	15,461
損益	177	1,358	213	-1,168	581
■ 24/6期					
売上高	1,943	11,446	2,031	-	15,421
損益	155	1,602	-60	-1,436	261

※ 各セグメントに配分されていない全社費用等

出所：同社決算短信よりTIW作成

25/6期の会社予想は30%増収、営業利益6.2倍

- 25/6期の会社予想は、売上高20,015百万円（同30%増）、営業利益1,625百万円（同6.2倍）。IJPソリューションについては、IT機器向けディスプレイの有機EL化や、AR/VRグラス等の量産計画を踏まえたマイクロディスプレイや光学製品向け投資の積極化などにより、関連設備投資が底堅く推移する見通し。半導体関連では、AI用先端半導体需要拡大に加え、IT機器・汎用サーバ用半導体需要の回復を受けた積極的な設備投資を見込む。

8月30日に決算説明会の開催を予定

- 同社は、8月8日に24/6期決算を発表。同月30日に決算説明会を開催する予定。

【会社概要】

2021年7月、東証第二部（現東証スタンダード）に上場。同社は、1990年操業開始の日立テクノエンジニアリング株式会社（現日立製作所）竜ヶ崎工場を母体に、2016年7月に日立製作所からの新設分割により設立された。IJP（Inkjet Printing：インクジェットプリンティング）ソリューション、半導体関連装置、LCD関連装置の三本柱。開発・製造・販売及びアフターサービスを手掛ける。

【ビジネスモデルの特徴】

LCDからプレミアム・ディスプレイへの流れが見られるなか、LCDの売上伸長が望めないと判断。事業主体をLCDから、半導体関連及びIJPソリューションへと改める取り組みを進めている。IJPソリューションでは、IJP応用分野、ナノインプリント応用分野、フィルム応用分野の研究開発成果を製品に展開し、先端のプロセスと設備を提案。半導体関連では、2023年3月に東京応化工業より、3次元実装向けウエハハンドリングシステムや、パワー半導体向け装置等を譲り受け、製品ラインアップを拡張した。

【リスク要因】

同社グループの売上高の大半は海外向けであり、中国、台湾、韓国に集中しているため、これらの地域の政治状況や法律・税制の変更、自然災害などが同社業績に影響を与え得る。代金回収については、中国などの商慣習により契約代金の一部回収が長期化することがあり、また顧客設備の稼働スケジュールや検収作業の遅延が発生する場合もある。については、同社の財務状況及びキャッシュフローに影響を与える可能性がある、

【四半期業績推移】

四半期決算データ		2023年6月					2024年6月				
単位：百万円		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
6227	AIメカテック										
売上高		1,304	3,896	2,571	7,690	15,461	1,377	3,906	3,570	6,568	15,421
前年同期比		-50.8%	40.5%	89.3%	-2.7%	5.3%	5.6%	0.3%	38.9%	-14.6%	-0.3%
営業利益		-512	288	-265	1,070	581	-545	156	-62	712	261
前年同期比		na	22.0%	na	25.9%	-21.0%	na	-45.8%	na	-33.5%	-55.1%
経常利益		-570	273	-281	1,047	469	-559	126	-91	686	162
前年同期比		na	21.3%	na	25.5%	-30.8%	na	-53.8%	na	-34.5%	-65.5%
純利益		-403	183	809	604	1,193	-393	101	-74	477	111
前年同期比		na	24.5%	na	1.2%	149.6%	na	-44.8%	na	-21.0%	-90.7%
売上高営業利益率		-39.3%	7.4%	-10.3%	13.9%	3.8%	-39.6%	4.0%	-1.7%	10.8%	1.7%
自己資本比率		39.3%	39.7%	35.2%	40.6%	-	38.3%	37.6%	41.6%	48.1%	-
純資産		7,388	7,533	8,353	8,986	-	8,351	8,187	9,409	10,955	-
総資産		18,779	18,950	23,699	22,134	-	21,786	21,745	22,587	22,774	-

データ出所：アイフィスジャパン

本レポートに掲載された情報・意見は、信頼にたると判断した情報源に基づき作成したものでありますが、完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は必ずしも適切且つ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は投資家ご自身の判断と責任で行って下さい。注意事項の詳細については最終ページをご参照ください。

【関連テーマ/チェックリスト】

6227

【企業戦略・ビジネスモデル】	【業績・財務】	【コーポレートアクション】	【テーマ】
✓ 高付加価値戦略 低価格戦略 多角化戦略 選択集中戦略 ✓ 知財・研究開発型 装置型・インフラ型 労働集約型 FC・ファブレス型 オーナー・同族企業 子会社・系列企業 グローバル化積極推進 ESG積極推進	上方修正期待 下方修正懸念 円高メリット 円安メリット 業績変動大(市況) ✓ 業績回復傾向 高ROE(10%以上) ✓ 高成長率 景気連動強い 景気連動弱い 財務体質強固 財務体質脆弱	増配・復配期待 分割期待 自社株買い期待 株主優待積極的 増資・ファイナンスの可能性 減配懸念 市場変更の可能性 ✓ 株式流動性良好 株式流動性低い ✓ 外国人持株比率20%超 M&A積極姿勢 MBOの可能性有	規制緩和関連 新興国関連 資源関連 次世代エネルギー関連 公共投資関連(復興含む) ✓ 設備投資関連 個人消費関連 シルバー関連 ITテクノロジー関連 ナノテク/バイオ関連 環境関連 大型新製品期待

注：上記チェックリストは担当アナリストの定性的判断に基づくものです。

【Fモデルによる理論株価推計】

AIメカテック

6227

(2024年8月8日現在)

株価	1,887 円
----	---------

Fモデルによる理論株価	2,177 円
現株価との乖離	15.3 %

当期利益(今期)	797	百万円
当期利益(来期)	1,072	百万円
来期EPS成長率	34.5	%
現預金	2,873	百万円
有利子負債	6,225	百万円
自己資本	10,953	百万円
総資産	22,774	百万円
時価総額	11,724	百万円
株数	6,213	千株
株主数	5,437	名

Fモデルによる妥当PBR	1.23 倍
収益力・成長性寄与分	1.32 倍
財務内容寄与分	-0.08 倍
PER(今期)	14.71 倍
PER(来期)	10.94 倍
実績PBR	1.07 倍
今期予想ROE	7.11 %
ネットD/Eレシオ	0.31 倍
割引率(資本コスト)	7.25 %
負債コスト	2.00 %

【Fモデル】について

「Fモデル」(Fertilize Fundamental Framework)は、「理論上では株価は、自己資本配当率(ROEと配当性向の積)、EPS成長率、無リスク証券の利回り(=国債利回り)、リスクプレミアムの4要素で決定される」という考え方を土台に、ROE値と成長性を一定の数値(インプライドの要求リターン)で割り引き財務価値を加減することによって妥当PBR水準を算出するものである。具体的には下記の算式によって求める。

$$\text{妥当PBR} = [\text{今期予想ROE} \times (1 + \text{来期EPS成長率}) \div \text{割引率}] - \text{ネットD/Eレシオ} \times (\text{負債コスト} \div \text{割引率})$$

割引率は、来期ベースの日経平均の要求リターン(10年国債利回り+インプライド・リスクプレミアム)を一律用いている。負債コストは暫定的に2%を適用する。ネットD/Eレシオがマイナスの場合(実質無借金)は、(負債コスト÷割引率)は1を適用する。

本レポートに掲載された情報・意見は、信頼にたると判断した情報源に基づき作成したものでありますが、完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は必ずしも適切且つ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は投資家ご自身の判断と責任で行って下さい。注意事項の詳細については最終ページをご参照ください。

【株価チャート】



【投資評価】

1		Buy
過去の投資評価		株価(円)
2024年6月5日	1	2,773
-	-	-
-	-	-
-	-	-
-	-	-
-	-	-

【アナリスト・インプレッション®】

担当カバレッジ 内での 注力度	業績予想の 蓋然性	株価見通し				株価変動性
		短期		中期	長期	
		~3ヶ月以内	3ヶ月~12ヶ月	12ヶ月~36ヶ月	36ヶ月~	
高い	高い	非常に強気	非常に強気	非常に強気	非常に強気	大きい
普通	やや高い	強気	強気	強気	強気	普通
		普通	普通	普通	普通	普通
		弱気	弱気	弱気	弱気	普通
低い	普通	非常に弱気	非常に弱気	非常に弱気	非常に弱気	小さい

●投資評価（対象期間：3～12ヶ月）

取材・調査・分析活動を通じた業界動向や企業業績見通し、財務状況、PER、PBR、配当利回り、TIW標準モデルによる理論株価、株式流動性、マーケット環境を勘案した上で各アナリストが株価の市場平均に対する見通しについて最終判断を行っております。1: Buy（買い）、1S: Speculative Buy（投機的買い）、2+: Outperform（市場平均を上回る）、2: Neutral（中立）、2-: Underperform（市場平均を下回る）、3: Sell（売り）。（注：過去の投資評価に付帯して表示されている株価は、レポート発行日の前営業日終値です）

●アナリスト・インプレッション®

アナリストが自ら担当する各企業に対する調査および分析の注力度を加味し、業績予想の蓋然性を勘案のうえ、短期的、中期的、そして長期的の定性的な株価見通しを示すものです。

岩元泰晶（いわもとやすあき）プロフィール

甲南大学経済学部卒。国内証券3社を経て2023年6月より現職。セクターアナリストとして自動車産業を中心に20年以上にわたり企業調査に従事。日経ヴェリタスアナリストランキングで定評を獲得、その他多くの受賞歴を誇る。的確な業績予想並びにバリュエーション分析により、市場コンセンサスをリードすることを信条とする。

（社）日本証券業協会アナリスト協会検定会員。

アナリストによる宣言

私、岩元泰晶は本調査レポートに表明された見解が、対象企業と証券に対する私個人の見解を正確に反映していることをここに証明します。また私は過去・現在・未来において、本レポートで特定の推奨を行うことに対して直接または間接に報酬を受けていないことを証明します。

利益相反に関する開示事項

TIWは、契約に基づき、アナリスト・レポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。

レポート対象企業の選定はTIW社が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。担当アナリスト並びにTIWと本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

本レポートに掲載された情報・意見は、信頼にたると判断した情報源に基づき作成したものでありますが、完全性、正確性を保証するものではありません。本レポートに掲載された内容は必ずしも適切かつ妥当なものとは限りません。投資に係る最終決定は投資家ご自身の判断と責任で行って下さい。注意事項の詳細については最終ページをご参照ください。

本レポートについて

1) 本レポートは、情報提供を目的としてのみ作成されたものであり、有価証券売買の勧誘を目的としたものではありません。有価証券その他の取引等に関する最終決定は投資家様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。

2) 本レポートは、「TIW」が信頼できると判断した情報源から入手した情報に基づいて作成しておりますが、これらの情報の正確性と、完全性、適時性を保証するものではありません。情報が不完全または要約されている場合もあります。本レポートに記載された価格、数値等は、過去の実績値、概算値あるいは将来の予測値であり、実際とは異なる場合があります。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート作成時における「TIW」の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

3) 本レポートは将来の結果を約束するものではなく、また、本レポートにある情報はいかなる目的で使用される場合においても、投資家様ご自身の判断と責任において使用されるものです。本レポートにおいて提供されるいかなる情報もしくは分析に、投資家様が依拠した結果として被る可能性のある直接的、間接的、その他の損害に関して、「TIW」または「TIW」にデータや情報を提供している提供者が責任を負うものではありません。

4) 本レポートに掲載された内容の著作権は、「TIW」または「TIW」にデータや情報を提供している提供者に帰属します。事前の承諾を得ずに、本レポートのすべてまたは一部を複製、販売、表示、配布、公表、修正、翻訳、頒布または営利目的での利用を行うことはできません。

「TIW」レポートは、株式会社アイフィスジャパンが発行しています。

株式会社アイフィスジャパン

東京都港区六本木 1-8-7 MFPR 六本木麻布台ビル 9 階

URL <https://www.ifis.co.jp/>